



2024年4月26日

各 位

会 社 名 株式会社モリタホールディングス
代 表 者 名 代表取締役 社長執行役員 金岡 真一
(コード番号 6455 東証プライム)
問 合 せ 先 取締役 常務執行役員 グループコーポレート本部長 村井 信也
(TEL 06-6208-1910)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年4月26日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2024年4月26日

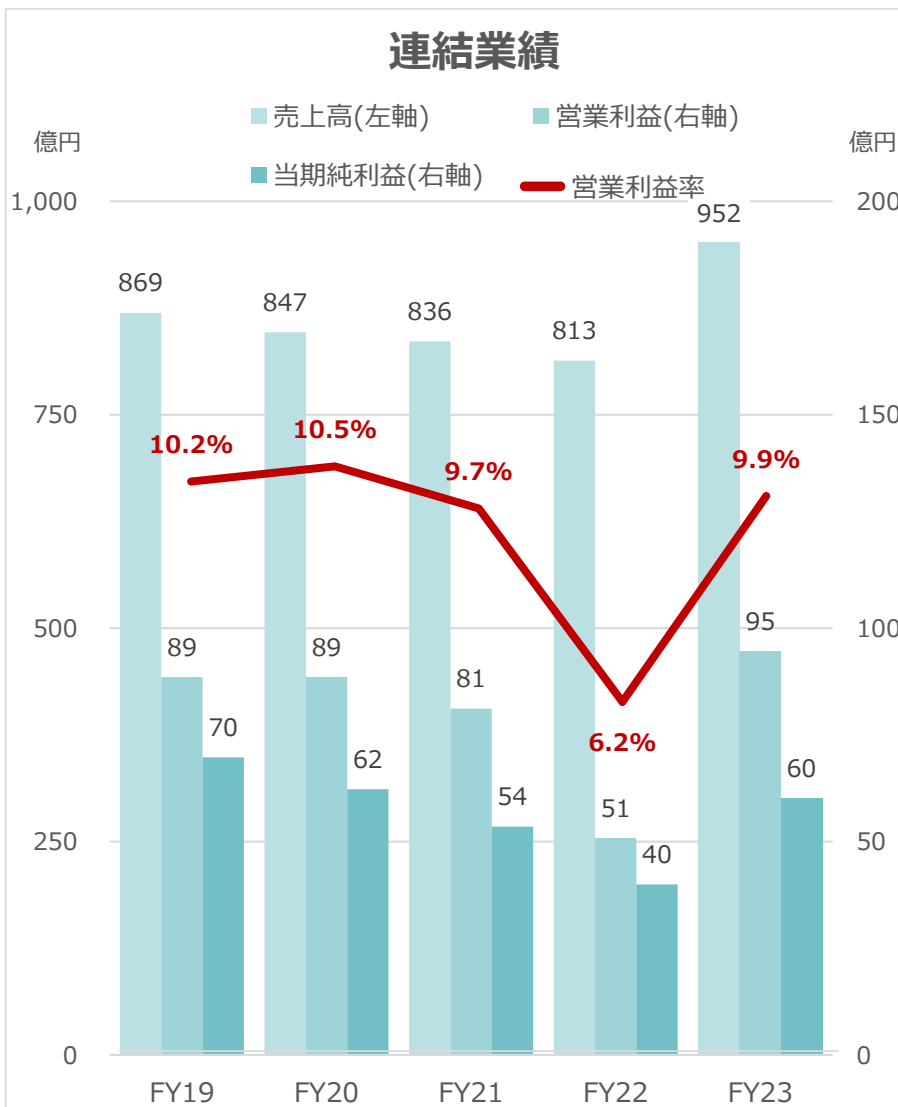
証券コード：6455

株式会社 **モリタホールディングス**

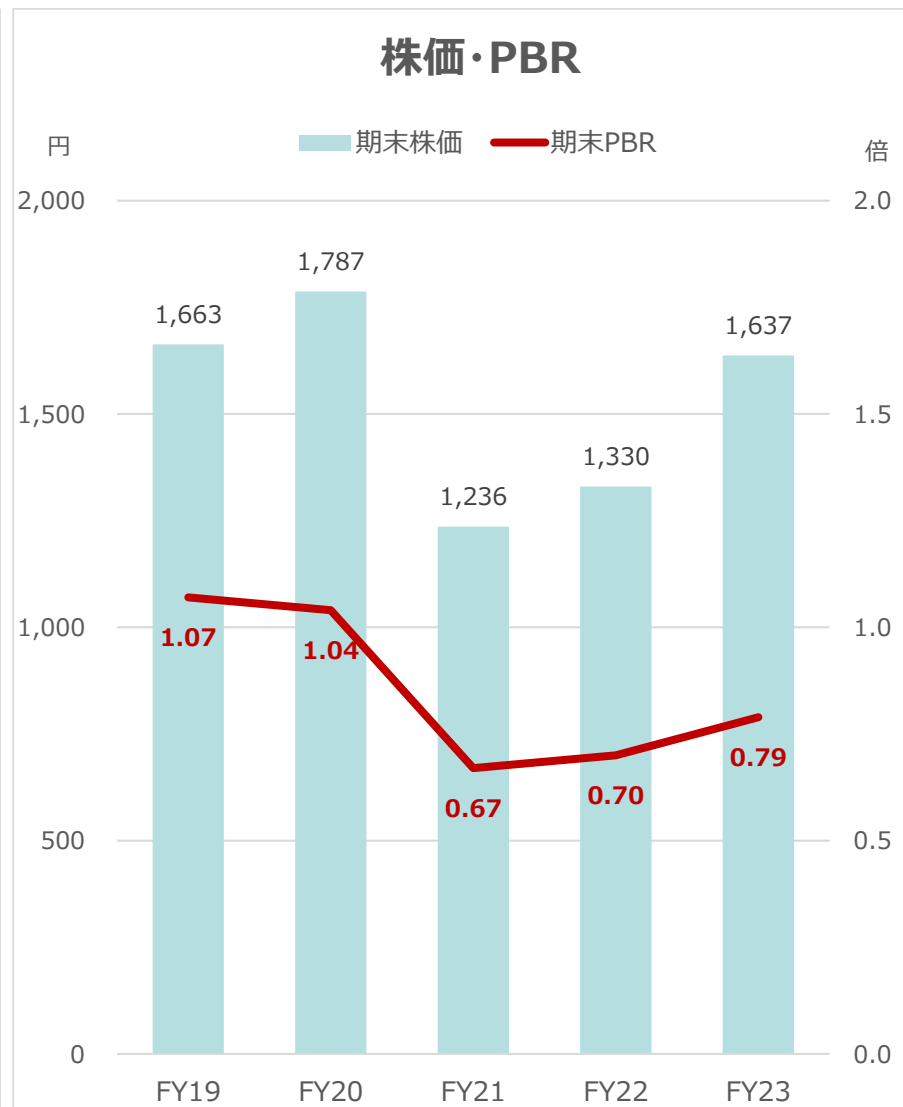
<https://www.morita119.com>

売上、利益はコロナ禍やシャシ供給遅延等の影響を受けて悪化した

連結業績



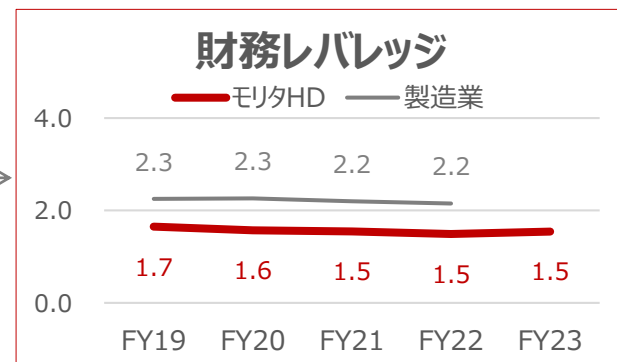
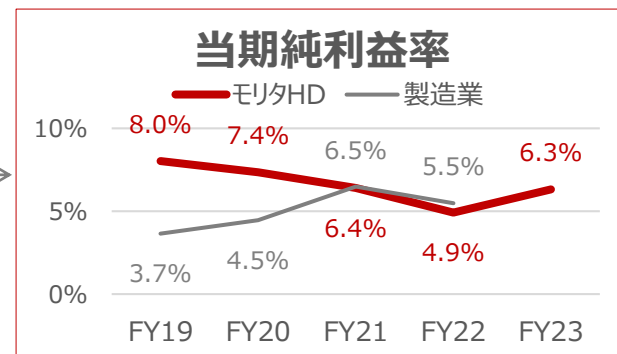
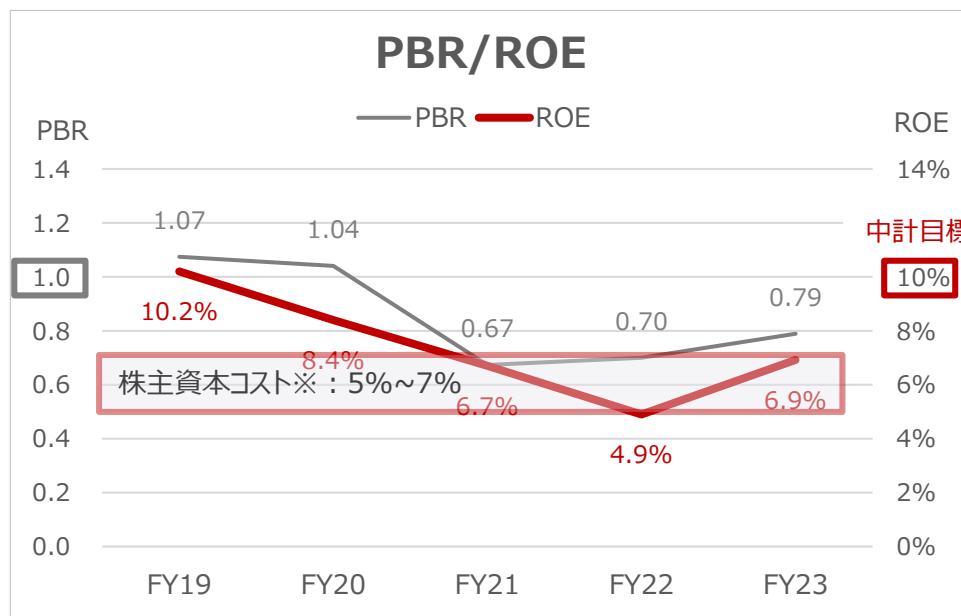
株価・PBR



財務レバレッジ活用が期待されるなか、利益率の優位性が失われたことで市場評価が低下した

PBR = **ROE** × PER

直近は株主資本コストを上回るROEを達成できておらず
中計目標とも乖離している



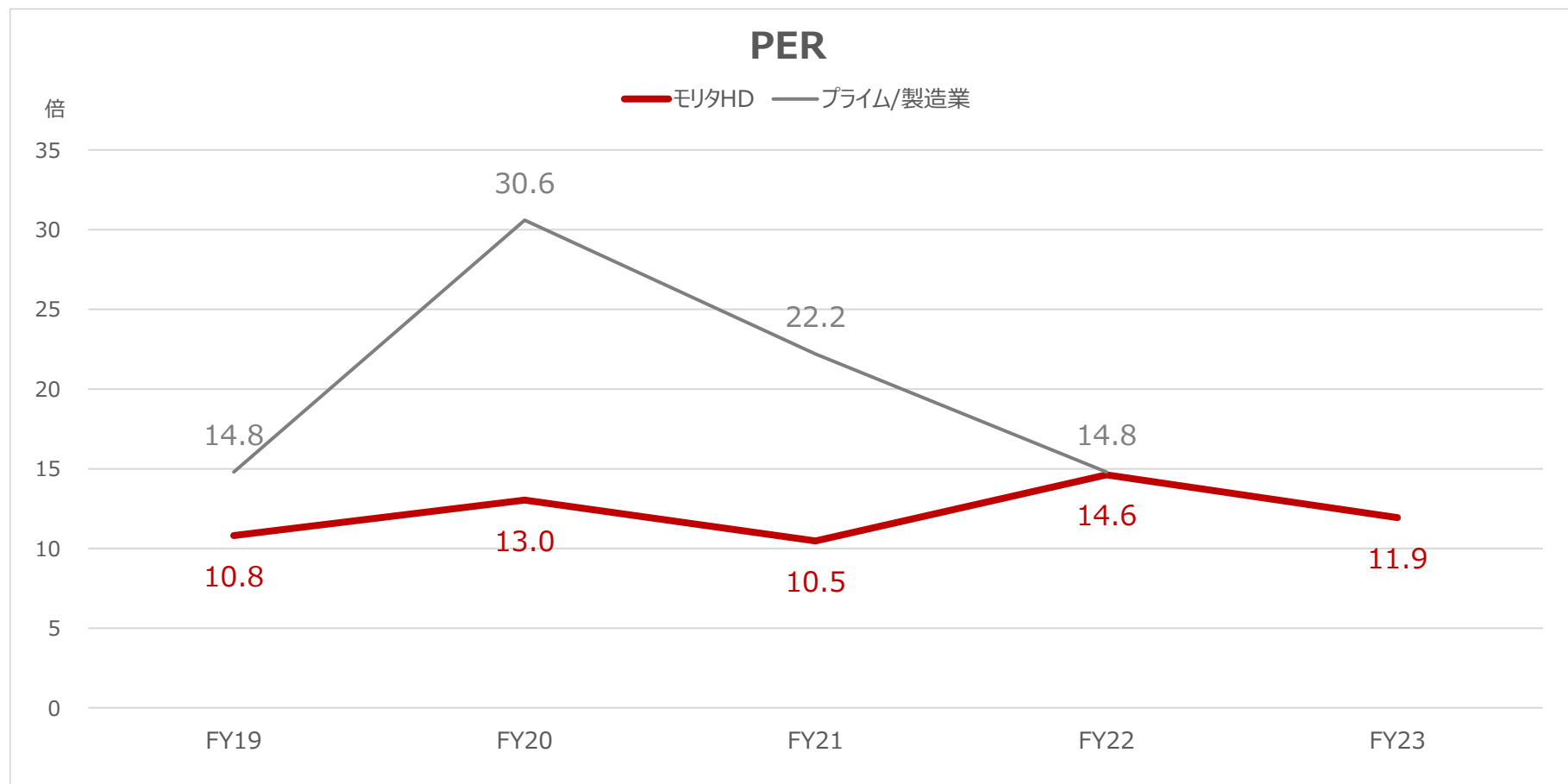
※ 株主資本コストはCAPMに基づき算出（参考値）

$$\begin{array}{c} \text{リスクフリーレート} \\ \boxed{\text{10年国債の利回り}} \end{array} + \begin{array}{c} \text{B値} \\ \boxed{\text{当社固有のリスク}} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{リスクプレミアム} \\ \boxed{\text{ヒストリカル法とインプライド法の平均}} \end{array}$$

想定外の外部環境変化により成長実現できず

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

PERは安定的ではあるものの業種平均を下回る

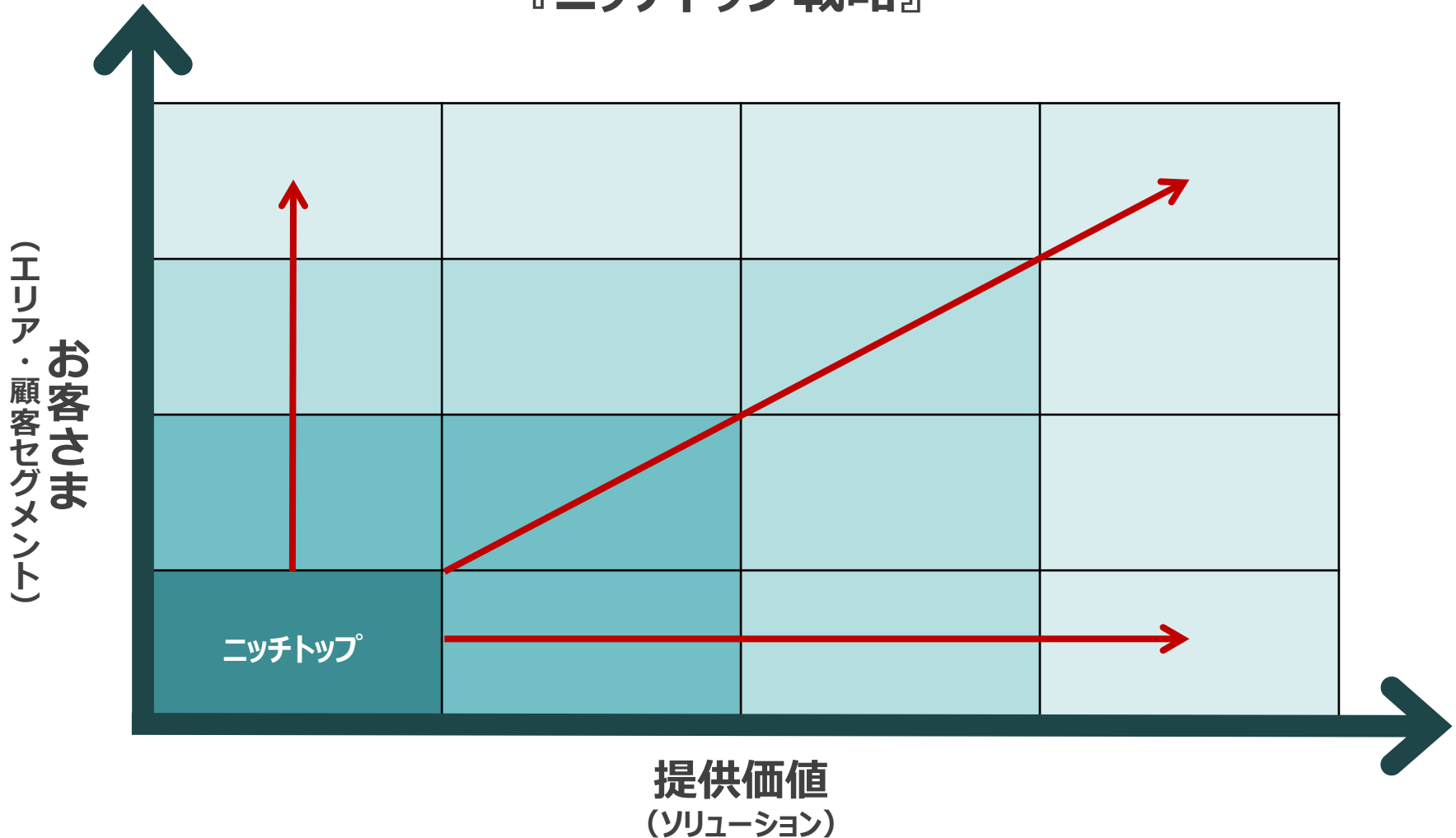


PBR構成要素の改善に結びつく戦略の着実な実行

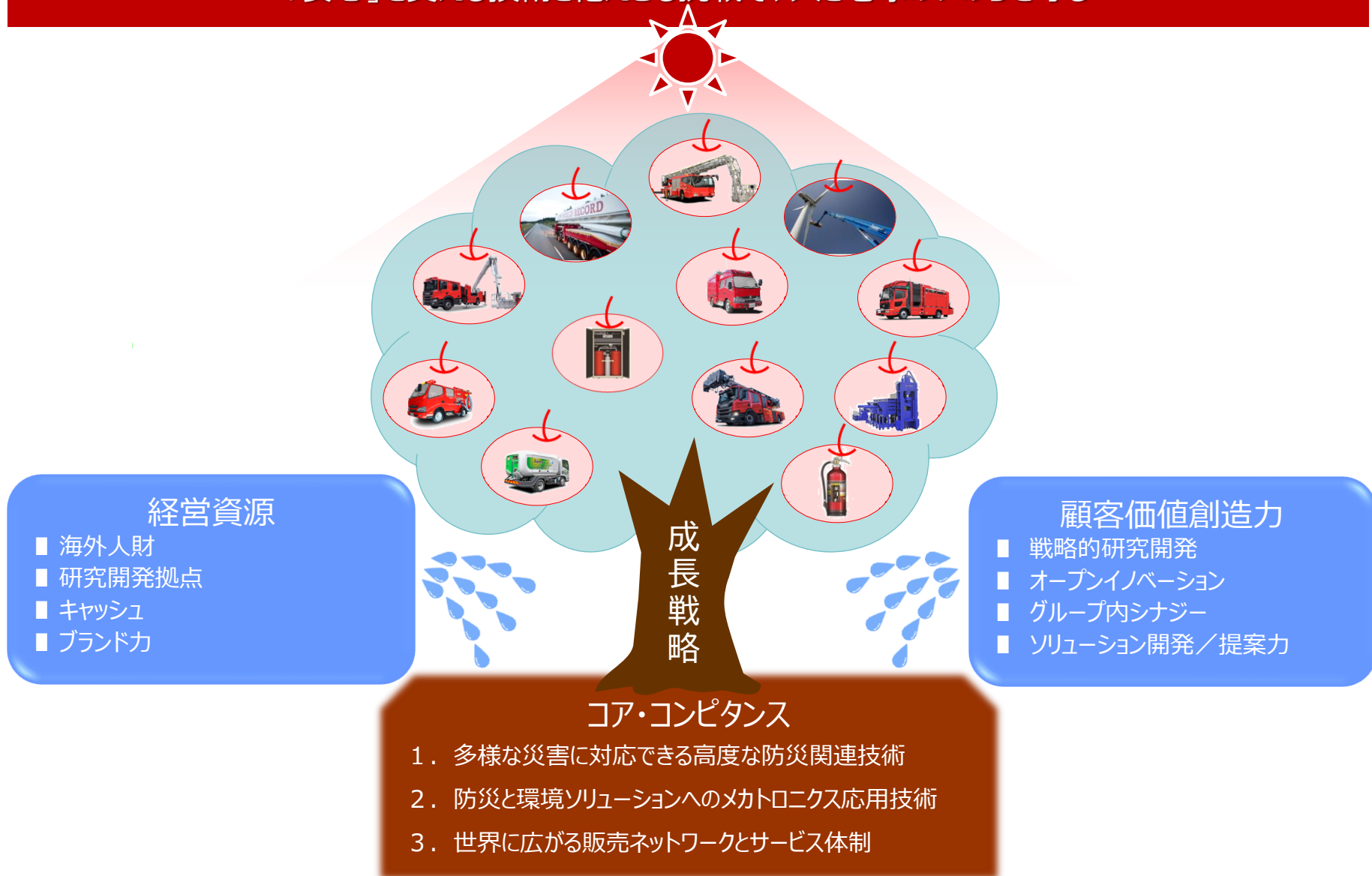
PBR構成要素		成長戦略	財務戦略
ROE	当期純利益率	<ul style="list-style-type: none"> ■ ニッチトップ戦略による収益力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高付加価値化のための研究開発投資 ■ 生産性向上のための設備投資
	総資産回転率		<ul style="list-style-type: none"> ■ 保有意義が不十分である政策保有株式の縮減 ■ 非事業性資産の圧縮
	財務レバレッジ		<ul style="list-style-type: none"> ■ 負債も活用した成長投資の実施
PER	成長への期待	<ul style="list-style-type: none"> ■ ニッチトップ戦略による市場の開拓 ■ 投資家との対話推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成長戦略を支えるキャッシュアロケーション

核となるニッチトップを起点に、2つの成長ベクトルでニッチを拡大・開拓する戦略

『ニッチトップ戦略』



「安心」を支える技術と絶えざる挑戦で、人と地球のいのちを守る



■ 配当政策

財務体質と企業基盤の強化を図りつつ、安定的な配当の継続及び向上を基本方針とし、DOE（株主資本配当率）2.5%以上を目安とする

■ 自己株式の取得及び消却

取得： 経営環境や株価の動向及び財務状況を勘案のうえ、資本効率の向上及び中長期的な視点から配当政策を補完する株主還元策の一つとして弾力的に実施する

消却： 発行済株式総数の10%程度を上限とし、それを超過する部分は原則として消却する

FY23-25 キャッシュアロケーション

